

# 令和4年度 置賜広域行政事務組合 広域連携事業報告書

事業概要								
概 要	<p>本組合では、平成25年3月に「第5次置賜広域ふるさと市町村圏計画」を策定し、広域連携を基本方針に3市5町が一体となって解決を模索する基盤として、広域連携アクションプランを設定した。</p> <p>平成25年度から「新たな広域連携の研究・推進」をテーマに協議を進めてきたが、広域連携による具体的な施策を実施することは難しく、平成27年度から、本圏域の人口減少や少子高齢化など、様々に考えられる広域的な課題を模索し、広域連携の事例を学ぶこと及び広域で連携する土壌を醸成することを目的に、新たな広域連携の研究・推進により置賜地域の広域連携を深めるための研修事業等を実施している。</p> <p>また、令和元年度からスタートした東京都港区との遠隔自治体間連携「おきたま×みなと開港プロジェクト」は、令和2年度からの2年間、新型コロナウイルス感染症により、港区との往来が制限されることとなったが、そのような状況でも、オンラインを活用して、置賜3市5町、港区及び地域活性化センターの職員同士が情報交換・交流を図りながら、交流研修やオンラインミーティング、交流事業としてオンライン交流芋煮会や、やまがたおきたまフェアを実施してきた。</p> <p>今年度は、さらなる広域連携や遠隔自治体間連携を推進するため、おきたま×みなと開港プロジェクトを通じて、置賜地域と港区が連携し、交流研修や港区芝地区総合支所が主催する「ふれ愛まつりだ、芝地区！」へ出展するとともに、新たな取り組みとして、自治体DX研修会を実施した。</p> <p>なお、本事業は、(一財)地域活性化センターとの「地方創生に向けた人材育成に関する連携協定」に基づく支援を受け実施しており、財源は山形県市町村振興協会の「市町村振興共同事業等助成金」を活用し事業を実施している。</p>							
	遠隔自治体間連携事業	<p>(1)おきたま×みなと開港プロジェクト交流研修</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>月 日</th> <th>場 所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回交流研修</td> <td>R4.9.26</td> <td>米沢市産業会館（置賜地域職員）及びオンライン（港区）</td> </tr> </tbody> </table>		項目	月 日	場 所	第1回交流研修	R4.9.26
項目	月 日	場 所						
第1回交流研修	R4.9.26	米沢市産業会館（置賜地域職員）及びオンライン（港区）						

	第2回交流研修	R5.1.18	米沢市産業会館																											
	第3回交流研修	R5.3.14	南陽市「シェルターなんよう」（置賜地域職員）及びオンライン（港区）																											
(2)港区芝地区交流事業																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>月日</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「ふれ愛まつりだ、芝地区！」出展</td> <td>R4.11.6</td> <td>港区芝公園</td> </tr> </tbody> </table>				項目	月日	場所	「ふれ愛まつりだ、芝地区！」出展	R4.11.6	港区芝公園																					
項目	月日	場所																												
「ふれ愛まつりだ、芝地区！」出展	R4.11.6	港区芝公園																												
(3)今年度実施した取組																														
<p>①米沢市長による港区役所訪問（紅花植樹、木材利用協定、大学連携について意見交換）</p> <p>②鉄道開業 150 年関連イベント「全国連携マルシェ in 高輪ゲートウェイ駅」出展（長井市、高畠町）</p> <p>③港区飲食店応援事業への食材提供（米沢市、小国町、南陽市）</p> <p>④港区内中学校への高校パンフレット配布（小国町）</p> <p>⑤全国連携情報誌「港から」掲載（小国町）</p> <p>⑥港区内商店会開催イベント「白金ミートフェスティバル」出展（長井市、南陽市、小国町）</p>																														
研修事業	(1)広域連携外部研修（地方創生セミナー）																													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>月日</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヘルステックによる健康まちづくり</td> <td>R4.6.10</td> <td>オンライン</td> </tr> <tr> <td>デジタル田園都市国家構想で変わるまちの未来</td> <td>R4.7.29</td> <td>オンライン</td> </tr> <tr> <td>フューチャーデザイン</td> <td>R4.8.5</td> <td>オンライン</td> </tr> <tr> <td>地域力創造大学校®カンファレンス</td> <td>R4.9.15～16</td> <td>東京都</td> </tr> <tr> <td>地域通貨</td> <td>R4.10.21</td> <td>オンライン</td> </tr> <tr> <td>子ども食堂</td> <td>R4.11.22</td> <td>オンライン</td> </tr> <tr> <td>パブリックスペース</td> <td>R4.12.16</td> <td>東京都</td> </tr> <tr> <td>地域コミュニティと行政の関わり方</td> <td>R5.1.26～27</td> <td>東京都</td> </tr> </tbody> </table>			項目	月日	場所	ヘルステックによる健康まちづくり	R4.6.10	オンライン	デジタル田園都市国家構想で変わるまちの未来	R4.7.29	オンライン	フューチャーデザイン	R4.8.5	オンライン	地域力創造大学校®カンファレンス	R4.9.15～16	東京都	地域通貨	R4.10.21	オンライン	子ども食堂	R4.11.22	オンライン	パブリックスペース	R4.12.16	東京都	地域コミュニティと行政の関わり方	R5.1.26～27	東京都
	項目	月日	場所																											
	ヘルステックによる健康まちづくり	R4.6.10	オンライン																											
	デジタル田園都市国家構想で変わるまちの未来	R4.7.29	オンライン																											
	フューチャーデザイン	R4.8.5	オンライン																											
	地域力創造大学校®カンファレンス	R4.9.15～16	東京都																											
	地域通貨	R4.10.21	オンライン																											
	子ども食堂	R4.11.22	オンライン																											
	パブリックスペース	R4.12.16	東京都																											
地域コミュニティと行政の関わり方	R5.1.26～27	東京都																												
(2)広域連携外部研修（地方創生実践塾）																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>月日</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ローカルから未来をつくる</td> <td>R4.8.26～27</td> <td>神奈川県真鶴町</td> </tr> <tr> <td>地域資源の価値創造とその仕組みづくり</td> <td>R4.9.9～10</td> <td>岐阜県飛騨市</td> </tr> <tr> <td>eスポーツ×福祉</td> <td>R4.9.30～10/1</td> <td>富山県</td> </tr> </tbody> </table>			項目	月日	場所	ローカルから未来をつくる	R4.8.26～27	神奈川県真鶴町	地域資源の価値創造とその仕組みづくり	R4.9.9～10	岐阜県飛騨市	eスポーツ×福祉	R4.9.30～10/1	富山県																
項目	月日	場所																												
ローカルから未来をつくる	R4.8.26～27	神奈川県真鶴町																												
地域資源の価値創造とその仕組みづくり	R4.9.9～10	岐阜県飛騨市																												
eスポーツ×福祉	R4.9.30～10/1	富山県																												

	(3)自治体DX研修会		
	項目	月日	場所
	自治体DX研修会	R4.12.8	オンライン
	(4)RESAS研修会		
	項目	月日	場所
	RESAS研修会※講師のみオンライン	R5.2.10	千代田クリーンセンター


第1回交流研修	
1 テーマ	おきたま×みなと開港プロジェクトのこれからを考える
2 日時	令和4年9月26日(月) 13:30~16:30
3 場所	米沢市産業会館(置賜地域職員)及びオンライン(港区職員)
4 講師	総務省地域力創造グループ地域振興室長 徳大寺 祥宏 氏 (一財)地域活性化センターフェロー・人材育成プロデューサー 前神 有里 氏
5 出席者	置賜3市5町、港区、地域活性化センター職員及び本組合職員等 20名
6 内容	<p>前神有里氏の講話とワークショップを実施し、徳大寺氏からは総務省で取り組んでいる定住自立圏や特定地域づくり事業協同組合、地域活性化企業人について話題提供いただいた。</p> <p>○「おきたま×みなと開港プロジェクトの事業展開について」(前神有里氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各市町で起きている新しい動きについて紹介があった。</li> <li>・市民同士のつながりから生まれた遠隔自治体間連携。</li> <li>・置賜全体をRESASで分析したことがきっかけとなり、定住自立圏の動きが生まれた。</li> <li>・異なる土地に暮らす人との細く長く緩やかな繋がりのおかげ。</li> <li>・わかりあえなさからスタートする。</li> <li>・置賜の中だけで考えると中ばかりを見てしまう。少し外と繋がる扉として「おきたま×みなと開港プロジェクト」が生まれた。</li> </ul> <p>○「「ふれ愛まつりだ、芝地区！」での具体的な交流について」(前神有里氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふれ愛まつりだ、芝地区！」や港区芝地区産はちみつ「しばみつ」について、港区から話を聞いた後、「ふれ愛まつりだ、芝地区！」でやってみたいことをグループワークで考えた。</li> <li>・物産(ニジザクラ、紅大豆、ラフランスなど)、体験・ワークショップ(けん玉、草木染、つる細工など)、観る・楽しむ(愛の武将隊、各市町のパンフレット配布、デジタルサイネージによる映像など)の意見が出た。</li> <li>・「ふれ愛まつりだ、芝地区！」以外にもやってみたいことを話し合った。</li> </ul>

	<p>○「置賜の広域連携の取組について考える」（前神氏、徳大寺氏）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定住自立圏の取組の効果として、成年後見制度では市町が一緒になることで担当者間のつながりができている。このつながりからできることを考えていくとよい。また、事業だけで考えず、長い時間軸で考えることが大切。</li> <li>・特定地域づくり事業協同組合は複数自治体でも連携可能な取組となっている。</li> </ul> <p>○まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークで出された案を参考に、「ふれ愛まつりだ、芝地区！」のブース内容を考える。</li> <li>・イベント以外にもできるところから進め、おきたまみなどのフェイスブックページや各市町のホームページなどでPRを行う。</li> </ul>
7 写 真	

「ふれ愛まつりだ、芝地区！」	
1 概 要	置賜地域ブースを出展し、置賜地域をPR、特産品の販売やアトラクションを通じて、港区民との交流を図ることを目的に実施した。
2 月 日	令和4年11月6日（日）10：00～15：00
3 場 所	港区立芝公園
4 来場者	3,688人
4 内 容	置賜地域を知ってもらうため、各市町のパンフレット配布や特産品の販売を行うほか、けん玉やもくロックの体験ブースを設置するとともに、甲冑武者の登場や、5連けん玉チャレンジといったアトラクションを通じて来場者との交流を図った。
5 写 真	



第2回交流研修	
1 テーマ	おきたま×みなと開港プロジェクトのこれからを考える
2 日時	令和5年1月18日(水) 13:00~17:00 1月19日(木) 9:00~16:00※置賜管内視察
3 場所	米沢市産業会館
4 講師	酒サムライコーディネーター 平出 淑恵 氏 (一財)地域活性化センターフェロー・人材育成プロデューサー 前神 有里 氏
5 出席者	置賜3市5町、港区、地域活性化センター職員及び本組合職員等 26名
6 内容	<p>平出淑恵氏の講話、前神有里氏のファシリテーションにより、おきたま×みなと開港プロジェクトのこれからを考えた。</p> <p>○「連携のこれまでとこれから」(前神有里氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、港区と連携を進めていきたいと考えている森林に関する取組について、港区環境課地球温暖化対策担当から説明を受けた。</li> <li>・R4に協定・国産木材活用の優良事例を表彰する「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度表彰」を創設した。</li> <li>・森林環境譲与税の用途は、区ではなく民間施設に協定・国産木材を使ってもらうための制度として活用している。</li> <li>・港区と置賜はたくさん連携しており、そこに西予市が加わるなど面で連携を考えていくと他の自治体は真似できない。</li> <li>・おおもんテラスを活用し、ワークショップの開催や現地とオンラインでつなぐことで、食をベースに他のつながりに誘引できる。</li> <li>・「ふれ愛まつりだ、芝地区！」をきっかけとして、B to Bで事業者同士の連携を政策面で考えていくことなどが重要。</li> <li>・港区と置賜のこれからの連携でやってみたいことをグループで話し合った。(おおもんテラスの活用、ワーケーション、DX、インターンシップ、林業(森林環境譲与税)、おきたまみなとガーデンなど)</li> </ul> <p>○「酒を切り口に連携を考える」(平出淑恵氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2012年には日本酒振興が国策となり、国税庁だけでなく経産省、農水省、観光庁、文化庁など様々な省庁が支援を本格化している。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本酒の魅力を知る海外人材と酒処の自治体をつなぎながら、日本酒や地域の価値を世界に広める活動を行っている。</li> <li>・酒を学んだ外国人が来日した時に、専門的なことではなく地元の人しか知らない情報は大きな武器となる。</li> <li>・グループワークを行い、これからおきたま×みなと開港プロジェクトをPRしていくなかで、商品だけでなく、地域にまつわる話について話し合った。</li> <li>・「ふれ愛まつりだ、芝地区！」以外にもやってみたいことを話し合った。</li> </ul> <p>○「置賜管内視察」(平出氏、港区芝支所4名、センター2名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・午前中は上杉神社のほか、置賜地域の酒蔵として東光の酒蔵(米沢市)、高畠ワイナリー(高畠町)、米鶴酒造(高畠町)を見学した。</li> <li>・午後は地産木材をふんだんに使用した白鷹町まちづくり複合施設(町役場や図書館などが併設)を視察後、道の駅米沢を見学し研修を終了した。</li> </ul> <p>○まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・港区と置賜の今後の連携について出されたアイデアの実施に向け、事業を進めていく。</li> <li>・3月に開催される交流研修において、森林に関する勉強会を開催するとともに、令和5年度の連携についても話し合う。</li> </ul>
7 写 真	

第3回交流研修	
1 テーマ	おきたま×みなと開港プロジェクトのこれからを考える
2 日 時	令和5年3月14日(火) 14:00~16:50
3 場 所	南陽市「シェルターなんよう 展示ギャラリー」置賜地域職員)及びオンライン(港区職員)
4 講 師	株式会社モリアゲ代表取締役 長野 麻子 氏 (一財)地域活性化センターフェロー・人材育成プロデューサー 前神 有里 氏
5 出席者	置賜3市5町、港区、地域活性化センター職員及び本組合職員等 26名
6 内 容	長野麻子氏の講話、前神有里氏のファシリテーションにより、これからのおきたま×みなと開港プロジェクトのこれからを考えた。

○「森林に関する講義」(長野麻子氏)

- ・森林環境譲与税は、温室効果ガス排出削減や災害防止等を図るための森林整備等に必要な地方財源を安定的に確保する観点から、令和元年度に創設された。税金なので、森林を保全することで得られる社会的・経済的利益を都市部にも還元する仕組みになっている。ただし、配分額の14%が基金に積み立てられたままになっており、地方部と都市部とが連携した税の活用が求められている。
- ・山形県は広葉樹が豊富だが、生え方や材質から使いづらいとされており(種類が多い、曲がっているなど)、うまく工夫しながらサプライチェーンに載せることが重要である。
- ・川西町には三菱鉛筆の工場があるが、国産材で鉛筆を作っているのは国内でここだけだ。同社から、川西町の森を生かした事業をやりたいとの申し出を受けているのでつなぎたい。
- ・森を生かした連携アイデアをグループに分かれて検討した。
- ・置賜の人は森林の需要をよく知らないなので、ワーケーションなどで訪れる都心部の方にどこに魅力を感じるのかを聞く。
- ・港区のワーケーション促進事業に置賜地域の自治体が参画し、港区に本社を置くモリアゲ社が事業に参加しながら、置賜・港区・モリアゲ社で今後の展開を考えていく。
- ・第2回交流研修で出された連携のアイデアと「ふれ愛まつりだ、芝地区！」の進捗状況について共有した。

○まとめ

- ・森林環境譲与税や森林の持つ可能性について学んだことから、今後は置賜地域が都市部に森林を触れ合う機会を提供し、共に考えながらイノベーションを生み出す関係性を目指す。
- ・来年度に向け、「ふれ愛まつりだ、芝地区！」のイベント出展の準備を進めつつ、その他の連携事業についても進捗管理しながら進めていく。

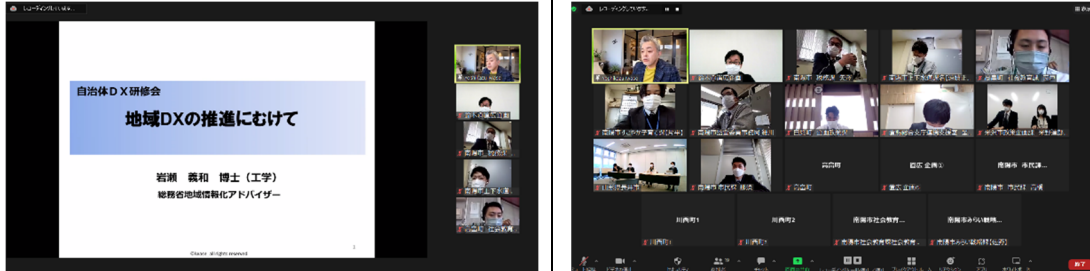
7 写 真



## 広域連携外部研修



<b>1 概要</b>	置賜地域の広域連携を進めるため、各市町及び本組合職員を対象に広域連携に関する意識醸成と定住自立圏構想に位置付けられる人材の養成を目的に、（一財）地域活性化センターと締結した連携協定に基づき、地方創生セミナー及び地方創生実践塾を受講した。			
<b>2 内容</b>	(1)地方創生セミナー			
	項目	月日	場所	受講者数
	ヘルステックによる健康まちづくり	R4. 6. 10	オンライン	3名
	デジタル田園都市国家構想で変わるまちの未来	R4. 7. 29	オンライン	8名
	フューチャーデザイン	R4. 8. 5	オンライン	1名
	地域力創造大学校®カンファレンス	R4. 9. 15～16	東京都	1名
	地域通貨	R4. 10. 21	オンライン	2名
	子ども食堂	R4. 11. 22	オンライン	3名
	パブリックスペース	R4. 12. 16	東京都	1名
	地域コミュニティと行政の関わり方	R5. 1. 26～27	東京都	1名
	(2)地方創生実践塾			
	項目	月日	場所	受講者数
	ローカルから未来をつくる	R4. 8. 26～27	神奈川県真鶴町	6名
	地域資源の価値創造とその仕組みづくり	R4. 9. 9～10	岐阜県飛騨市	1名
	eスポーツ×福祉	R4. 9. 30～10/1	富山県	1名

## 自治体DX研修会

<b>1 内容</b>	自治体DXの意義と内容について知り、今後、どのような取組が必要なのかを考え、各市町で自治体DXを推進するための方法について学んだ。		
<b>2 月日</b>	令和4年12月8日（木）14：00～16：00		
<b>3 場所</b>	オンライン		
<b>4 講師</b>	地域情報化アドバイザー、株式会社デジコンキューブ代表取締役 岩瀬 義和 氏（オンライン参加）		
<b>5 出席者</b>	置賜3市5町、置賜総合支庁 50名		
<b>6 写真</b>			



# RESAS研修会

1 内 容	RESASの基礎知識を学ぶ基礎編と、RESASによる分析の深掘り、課題発見の手法について学ぶ応用編の2部構成で行った。	
2 月 日	令和5年2月10日（金）13：00～16：10	
3 場 所	千代田クリーンセンター研修室及びオンライン	
4 講 師	経済産業省東北経済産業局 総務企画部企画調査課 地域経済分析システム普及活用支援調査員 福田 剛道 氏（オンライン参加）	
5 出席者	置賜3市5町、置賜総合支庁 35名	
6 写 真		

## 収支決算書

収入

(単位：円)

項 目	金 額	備 考
広域連携事業費分担金	3,000,774	市町村振興共同事業等助成金
合 計	3,000,774	

支出

区 分	項 目	金 額	備 考
報 償 費	講師謝礼	402,000	
旅 費	普通旅費	1,546,800	
需 用 費	消耗品費、燃料費	155,992	
役 務 費	通信運搬費、手数料	353,282	
使 用 料	会場使用料	42,600	
備品購入費	備品購入費	122,100	
負 担 金	研修負担金	378,000	外部研修受講負担金
合 計		3,000,774	

差引

収 入	3,000,774	
支 出	3,000,774	
差 引	0	

# おきたまみなと開港プロジェクト

概要

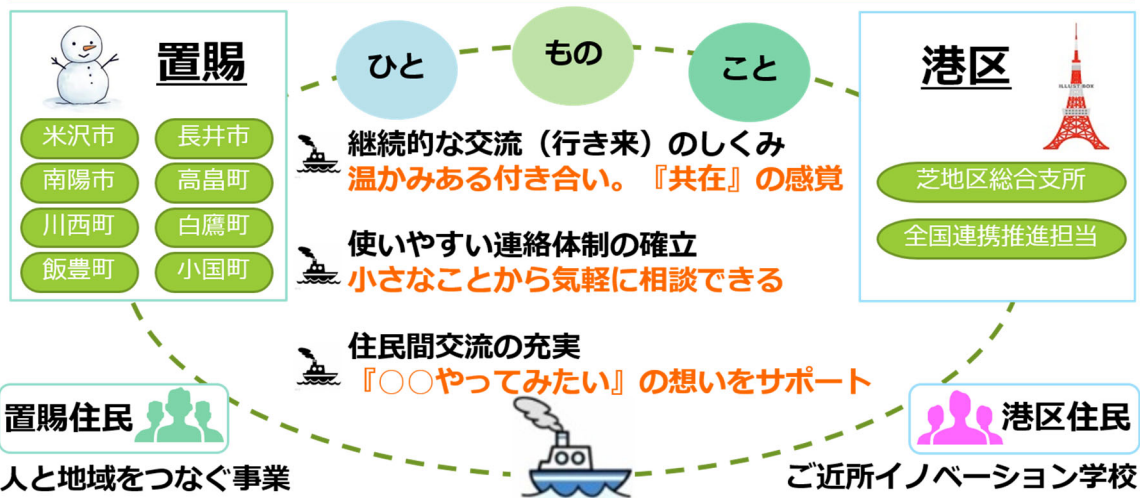
新たな価値を創造し互いに豊かな暮らしを実現することを目的に、港区と置賜地域の遠隔自治体間連携を「ひと・もの・こと」が行き交う地域創発プラットフォームとして、「おきたまみなと開港プロジェクト」を立ち上げ、人材育成事業を進め、様々な遠隔自治体間連携事業を実施していく。

事業イメージ

## 港区と置賜の「ひと・もの・こと」が行き交う地域創発プラットフォーム『おきたま×みなと』を開港します

相互につながることで新たな価値を創造し互いに豊かな暮らしを実現

### 『おきたま×みなと』



実施事業(案)

ひと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会や連絡会などによる職員交流 越境する職員（人材育成）、心のかよった連携の構築</li> <li>・港区住民が置賜を知る機会、置賜住民が港区を知る機会の創出 「人と地域をつなぐ事業」と「ご近所イノベーション学校」</li> <li>・お互いの既存事業を活用したさらなる関係人口の創出 自然体験交流、ワーキングホリデーなど</li> </ul>
もの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国連携マルシェ in 芝浦</li> <li>・「広報みなと」で置賜3市5町の紹介「広報おきたま」で港区の紹介</li> <li>・港区の各施設にあるデジタルサイネージを活用した地域紹介</li> <li>・木材利用、再生可能エネルギーの活用、置賜食材の活用</li> </ul>
こと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティライブサイトなど、オリパラを活用した事業</li> <li>・全国連携マルシェin芝浦への出展</li> <li>・区有施設等における置賜PRイベントの開催</li> <li>・民間企業同士の交流推進</li> </ul>

## 令和5年度のおきたま×みなと開港プロジェクト事業案

置賜地域と港区職員による交流研修で出されたアイデアを整理し、令和5年度に取り組む事業案について下表のとおり整理した。

No.	事業	内容	具体的な取組案
1	交流研修	港区と置賜地域の職員による交流研修	研修事業の開催
2	ふれ愛まつり	置賜の地酒販売（おきたま酒まつり）	6月10日（土）開催
3	林業（森林環境譲与税）	川上（置賜）～川下（港区）をつなぐストーリー、山の文化、食の文化などコーディネートを通じた交流（ショールームも活用）	uni4m(ユニフォーム)ショールームの活用、「間伐材を始めとした国産材の活用促進に関する協定」締結
4	おきたまみなとガーデン	芝公園で紅花植樹、しばみつ作り	紅花植樹、港区ロビーへの紅花展示、しばみつのコラボ商品開発
5	おおもんテラス活用	・高校生や大学生の販売企画 食のコラボ（栄養大×戸板女子大） ・食のサミット（地酒、芋煮の食べ比べ）	・Okiraku キッチンとの連携 ・他自治体の芋煮食べ比べの開催
		昼は物産や弁当販売、夜はお酒の提供（生産者とオンラインでの交流）	「ふれ愛まつりだ、芝地区！」や、芋煮食べ比べの開催時期に合わせたの実施
6	ワーケーション	港区の連携企業が置賜でワーケーション（地域とのつながり、人と地域をつなぐ事業の応用）	置賜各市町からのワーケーションプログラムの提供
7	公衆浴場×温泉	港区の公衆浴場で置賜の温泉を体験	毎年2月に港区公衆浴場で開催

## まとめ

平成27年度から第5次ふるさと市町村圏計画に基づき、本圏域の人口減少や少子高齢化など様々に考えられる広域的な課題を検討するため、広域連携の事例を学ぶこと及び広域で連携する土壌の醸成を目的に、山形県市町村振興協会の「市町村振興共同事業等助成金」を財源に活用し、事業支援として、(一財)地域活性化センターから「地方創生に向けた人材育成に関する連携協定」に基づく支援を受け「広域連携事業」を実施してきた。今年度からの新たな取り組みとして、自治体DX研修会を実施した。

今年度は東京都との往来も制限されることがなくなったため、遠隔自治体間連携をさらに推進するため、おきたま×みなと開港プロジェクトを通じて、置賜地域職員と港区職員による交流研修や、港区芝地区総合支所が主催する「ふれ愛まつりだ、芝地区！」へ出展するとともに、対面で交流することで、これまでオンライン上でのつながりしかなかったところに、現実のつながりが加わり、温かみのある付き合いや共在の感覚が深まった。

また、(一財)地域活性化センターと締結した「地方創生に向けた人材育成に関する連携協定」に基づき、広域連携外部研修を受講した。その一環で協定締結団体が集まる連携推進会議に参加し、人材育成事業の最新の事例や状況を知るとともに、他自治体と事業の進捗状況や課題等について相互の情報交換を行うことができた。

来年度については、置賜地域のさらなる広域連携推進と遠隔自治体間連携「おきたま×みなと開港プロジェクト」を進めるため、今年度の交流研修で出されたアイデアを具体化し、新たな価値を創造するために事業を実施していく。

最後に、ご支援いただいた(一財)地域活性化センターの皆様、助成金によるご支援及びご助言をいただいた山形県市町村振興協会事務局の皆様には深く感謝申し上げます、報告書の結びとしたい。